

古希から描く壮大な夢

いよいよ私も今月、古希を迎えます。定年からちょうど 10 年。この間いろんな体験をしてきました。最も厳しかったのは定年 3 年目、スペイン留学から帰ってまもなくうつになってしまったこと。その結果、オファーを受けた有望ないくつもの仕事を断らざるを得なかった。どうしようもなく落ち込んでいたところ、シルバー人材センターの存在を知り、そこから人生の再スタートをしたことです。



仕事は JR 駅前の駐輪場の管理員から始まりました。その結果うつも完治、いろんな仕事やボランティア活動にも参加、いわゆる仏法でいう「変毒為薬」をできたことです。

最も大きなテーマは、定年後のライフワークとして「世界文学紀行」を始めたことです。私は 2003 年に出版した「定年留学してみませんか？」のあとがきに綴りました。「・・・大学を終わると、いよいよドン・キホーテの軌跡を訪ねての旅に出かけます。その後は、少し働いてお金を貯めたら、世界の名作の舞台を訪ね歩く予定です。“東京のドン・キホーテ”の見果てぬ夢は続いています」

こう記しながらも、実際にはその“見果てぬ夢”の実現にはそれほど強い確信はなかったのですが、結果的にこの 6 年間で 10 作品以上の舞台を訪ねてきていることに自分でも驚いているところです。



「ドン・キホーテ」から始まった名作の旅は「風と共に去りぬ」「赤毛のアン」「ロミオとジュリエット」「ベニスの商人」「ハムレット」「ファースト」「若きヴェルテルの悩み」「車輪の下」それにアンデルセン、グリム兄弟の作品の舞台、さらにエジプトのナイル・クルーズやドイツのライン・クルーズ、それに番外編として歴史に残る名画「ローマの休日」やパナマの「ある恋の物語」の歌の舞台なども訪ねてきました。

今年はロシアが舞台の「戦争と平和」「罪と罰」、それに中国の「三国志」や「大地」の関連の地を予定しています。

さらに明年以降は：

フランス＝「レミゼラブル」「三銃士」、イギリス＝シェクスピア、ディケンズの作品群とビートルズの発祥地、アメリカ＝「最後の一葉」「賢者の贈り物」、メキシコ＝「ベサメムーチョ」

の歌の舞台、キューバ＝「老人と海」、スペイン＝「カルメン」「武器よさらば」、アジアに戻り
ミャンマー＝「ビルマの豎琴」、そして「法華経」の舞台インド・・・・・・等々。

できればこれらを体力のある喜寿（77歳）までに回り、その集大成として「私の世界名作の
旅」を出版したい。

その後は国内で温泉を舞台にした作品の地を訪ねたい、なんて勝手な夢を描いています。
例えば「坊っちゃん」「雪国」「伊豆の踊子」「城崎にて」「夜明け前」そして最後は「奥の細道」
の片鱗だけでも・・・・・・。どれも青春時代に胸をときめかせた、またその後の人生の精神性
を深めたり心を潤してくれた作品です。



なんとも壮大な計画ですが、すべて「夢」です。でも夢見ることはただ。夢を描くことによ
って人生そのものが楽しく見えてきます。仮にそれが結果的に実現できなくても、日々の生活
に希望を持たせ明るくしてくれるから夢は描かなければ損です。

「夢が、志が人を創る。大きな夢と大きな志は大きな人生を創る」とも言われています。とて
つもない大風呂敷を広げたものですが、なんとか大きく広げた夢を風呂敷の中に収めていき
たいと願っています。

そのためにはまず健康そして取材旅費です。健康では昨年から始めた1日1万歩と自宅の7
階までの階段上りを続けています。旅費の確保のためには今もいろんな仕事をしています。（新
聞社や雑誌社からまれに原稿料や写真代が入ることもありますが、取材費の半分にも満たない）。
いずれにしても「仕事は一生涯！」が私のモットーです。

ちょうど今から20年後は創価学会の創立100周年の佳節にあたります。こうして70代、80
代を精いっぱい働き、楽しみ、社会にも貢献できたという実証を残していきたい。そして信州
人のいう90歳でPPK（ピンピンコロリ）、さらに100歳を超えて海外講演に出かけている、
いのみ字園園長・舜地三郎さんの言うようにNPO（長生きしポックリと往生）となったら
最高です。

といったところが、古希を迎えるこれからの私の人生設計です。「夢のような『夢』」ですが、
もし皆さまの何らかのご参考になるところがあるとすれば幸甚です。